和教時報

2022年８月15日（月）発行　第1988号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みぱん

2022人事院勧告

基本給・ボーナスとも3年ぶりに引き上げ

しかし、物価高騰に対しては不十分

八月八日、人事院が国家公務員の賃金等について、内閣と国会に対して勧告を行いました。公務員賃金は、人事院や人事委員会が民間と公務の給与比較を行い、国や県に勧告します。

今年は、基本給は平均〇・三%の改定（ベースアップ）、ボーナスは〇・一月（再任用者は〇・〇五月）プラスが勧告されました。厳しい経済状況のもとで引き上げ勧告となったのは、今年の春闘で賃金引上げを勝ち取るなど、私たち労働組合の運動の反映です。

しかし、基本給改定は若年層に限られるなど、この物価高騰の中で極めて不十分な内容となっています。

今後、私たちを含め県の公務員に対しては一〇月に人事委員会が勧告を出し、その後一〇月下旬からはじまる県教委との確定交渉で賃金、労働条件が確定します。生活できる賃金、人間らしい生活ができる労働条件を求め、交渉に向けて団結を強めていく必要があります。

人事院勧告の主な内容

1、官民格差　921円（0.23%）国家公務員が民間より低い

2、給料表　改定率　平均でプラス0.3%（2022年４月実施）
若年層（30代半ばまで）のみ改定（4000円～200円）

3、一時金（ボーナス）　勤勉手当＋0.1月　年間4.4月に（民間平均4.41月）
再任用は＋0.05月で年間2.30月に

4、その他
＊テレワークを行う場合に支給する新たな手当について、具体的な枠組みを検討
＊社会と公務の変化に応じた給与制度の整備…給与制度のアップデートに向けて、2023年に骨格案、2024年にその時点で必要な措置の成案を示し、施策を講ずることを念頭

輝いてワンショット

うまくいくかな？

（栄養職員部学習会より）

ピンポイントスポット 403

最高気温が三五度以上の日は「猛暑日」ですが、四〇度以上で「酷暑日」というのも検討されていると先日ニュースで聞きました。私が子どもの頃は天気予報で「明日は三〇度」と聞くと「暑いなあ～」と思いましたが、今では「おっ、ちょっと涼しそうやな」と思ってしまいます。欧米などでは若者を中心に「地球温暖化」に対する危機感が広がり、様々な取り組みが行われていますが、日本ではまだまだ一部の人の活動にとどまり、危機感は大きく広がっていません。今こそ、将来の世代に取り返しのつかない負の遺産を残さないよう、再生可能エネルギーの研究・開発・供給に全力で取り組み、脱火力・脱原発を達成しようと言う世論を日本中に広げましょう！

（T）

養護教員部

2022夏の全国学習交流会 in 岡山

とても暑く熱い二日間！

有田支部　田鶴小分会　北村　佐和美

七月三〇日・三一日の二日間、岡山西川原プラザで学習会が開催されました。新型コロナウイルス感染症第七波の中、リモートではなく会場での開催には実行委員会の方々の多大なご苦労があったことと思います。「晴れの国　岡山」らしいとても暑く熱い二日間でした。少し岡山城周辺の散策もできました。

一日目の記念講演は、石川康宏氏より「コロナ危機を乗り越えられる社会をどうつくっていくのか～子ども達に希望のある未来を引き継ぐために今私たちができること～」をききました。この七月に行われた参院選のことから始まり、政治の話、諸外国と比較して日本の教育や福祉の現状はどうなっているか等を教えてくれました。「政治家がアホなのは、投票した国民がアホだからだ」と言われたことが印象的でした。

自主講座では、摂食障害について学習しました。

二日目は分科会で、コロナ対策と貧困問題のレポートより養護教員と共同研究者が交流しました。どちらも学校だけでは解決できない現代的健康課題は他機関との連携が重要です。

3年ぶりに「総会」開催！「?ボックス」もうまくできたよ！

栄養職員部　神倉小分会　大西　勇也

七月二三日、栄養職員部の総会、学習会が開催されました。対面で行われたのは三年ぶりで、参加者は八名でした。午前は総会で昨年度の活動報告や今年度の方針、決算・予算などの議事が進められました。途中には、参加者が活動したいことや給食運営の悩みについても論議しました。自校給食・センター給食、県立・市町村立など各学校によって悩みは様々です。

午後からは学習会「?はてなボックスづくり」。食材カードを入れると、三色栄養の色（裏面）に変化して出る箱です。ずっと計画されていましたがタイミングが合わず、三年越しの実施でした。

まず段ボールに入り口と出口を切り開けます。次がこの箱のカギとなる「箱に入れたカードが裏返って出てくる」仕組みづくりです。二つの坂道を使ってつくりますが、そう簡単に成功しません。話し合いながら改善する女性部員に対し、男性部員は黙々と試行錯誤を繰り返していました。やっとのことで仕組みをつくり、裏面を閉じて完成です。

総会・学習会を通して多くの収穫がありました。栄養職員・教諭は一人職場で不安も多いですが、集まって悩みを共有できる仲間は心強いと感じます。夏休みには一年生の担任と相談し、授業の予定を入れました。もっとワクワクさせたいと思った昨年の研究授業に、新しい教材を使えるのが楽しみです。

みんなと話そう、子どもたちのこと

不登校とか
支援とか

和歌山市支部　西脇中分会　志茂　雅哉

七月二九日、第二回教育基礎講座を実施しました。まず、有功東小学校の白石先生が、今年担任している児童についてのとりくみを報告してくれ、そのあと参加者から自由に意見を述べてもらいました。その中で、不登校生とのかかわり方や保護者への対応について、参加されていた先生方からたくさんの経験・体験談が出され、不登校生の対応について、みなさん手探りで悩みながら取り組んでいる様子が明らかになりました。

コロナ休校明けの時差登校で、不登校生が登校できるようになったという事実から、少人数学級を実現し不登校生対応の教員を増員することが、不登校生問題を解決するために一番大切な事だと参加者で確認し、講座を終えました。

楽しく学んでリフレッシュ

日高支部　書記長　寒川　幸久

実際に硬筆で日／白の「折れ」の違いを学び、学んだ前後の文字を見比べます

日高支部では教文アンケートや組合員の声をもとに教育講座を行っています。

今年度は、書写、理科、特別支援の夏期講座を企画しました。

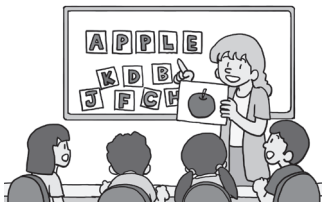
七月二九日の書写の夏期講座は、日高地方書写教育研究会元役員の岡健司先生を講師にお招きしました。

授業で大切にしてきたこととして、子どもたちの授業の初めと終わりの文字を比べさせ、自身の成長を捉えさせること、良くなった点はしっかり褒めることなどお話しいただきました。また、楽しい作品づくりとして、折り染めした紙に文字を書かせたり、発泡トレイでオリジナル判子づくりなどを紹介いただき、実際に折り染めと判子づくりを行いました。

参加者はそれぞれの作品を見せ合い、楽しく交流していました。

英語教員交流会

那賀支部　書記長　部家　司好



七月二九日、那賀支部で民研の大松先生にコーディネーターをしてもらい「英語教員交流会」を開催しました。大松先生を含め六名の参加がありました。

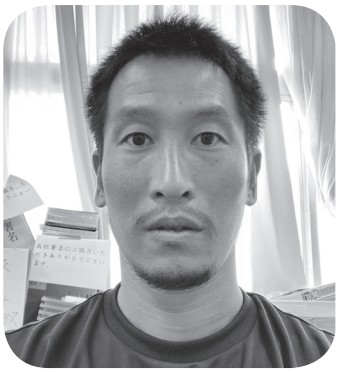
昨年から新しく変わった英語教科書は現場にどんな影響をもたらしているかというテーマですすみました。英語の教員が一番悩んでいるのは、教えるべき単語や語彙の数が飛躍的に増えたということが出されました。そのことは、学習する側の生徒にとっても大きな負担となっており、単語学習をどうしているのかという話で交流しました。その他、文法事項や本文の内容などでも交流することができました。

民研でも全県的に調査したいということなので、問題点を明らかにしていってもらいたいです。

ぜひ あなたにも 読んでいただきたい この一冊

3 「洞窟ばか」

那賀支部　貴志川中分会　**森田　康介**



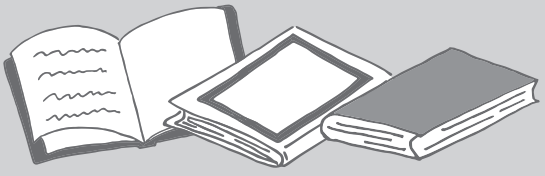
私は、「冒険」「探検」をリアルに実感するノンフィクション作品が大好きです。これらの本を読む事で、本当に自分が旅をしているような感覚が持てます。

私が紹介する本はテレビでも有名になった吉田勝次さんの「洞窟ばか」という本です。この本では、筆者が洞窟探索に没頭し、どのような生活をしているか。新しい洞窟を見つけるためにどうしているかなど、自分たちが体験することのない非日常的な世界に触れることが出来ます。

よく絶景スポットや観光名所として親しまれている「鍾乳洞」に足を運んだり、写真やテレビの映像で洞窟内の地底湖をライトアップした神秘的な風景を目にしたことがあるかと思います。この世界を何も苦労なく自分たちが目にすることが出来ているのは、筆者らのような洞窟探検家がいるから見る事が出来ている景色です。

著者は、「誰も見たことのない世界をどうしても見たい」と綴っています。洞窟内、全く見えない漆黒の世界。首まで泥水に浸かって進み、一七㎝の隙間があればとりあえず滑り込み、挟まり動けなくなる。真っ暗な縦穴を降下中、落石で骨折。そのまま三〇〇ｍのロープを片手でよじのぼる。持ち込んだ食料はすべて食べきり、排泄物はすべて持ち帰る。泥がたまり、唐突に行き止まりになっている先がどうしても見たいと、三日三晩掘り進み、ふわっと風が顔に当たり、その先で鍾乳石が輝いている。

こんな世界に皆さんは興味がわきませんか?タイトル通り、「ばか」に思えることを本気で貫く洞窟探検家の深い哲学、ぜひ読んでみてください。



日教弘教育賞

学校や個人の教育実践をまとめてみませんか？
日教弘は教育実践論文に対して表彰助成を行っています。

◆表彰および賞金額

⑴	最優秀賞２編	・学校部門50万円	・個人部門30万円
⑵	優秀賞　６編	・学校部門40万円	・個人部門20万円
⑶	優良賞　８編	・学校部門30万円	・個人部門15万円
⑷	奨励賞（上記外論文）	・学校部門10万円	・個人部門５万円

和歌山支部で選考後２～３編を本部へ推薦します。
また本部推薦以外にも支部表彰があります。

◆９月末日　日教弘和歌山支部　必着

※詳しくは「日本教育公務員弘済会」のホームページをご覧ください。
https://www.nikkyoko.or.jp/

公益財団法人　日本教育公務員弘済会和歌山支部　TEL 073-421-7881